

# 私達地球人の運命に直面して

——今や進化サイクルの最終段階へ

(Facing Human Destiny: Entering the Last Major Phase)

スコット・マンデルカー

Scott Mandelker, Ph.D. [www.universal-vision.com](http://www.universal-vision.com)

2001年9月11日の事件（まさに地球の119番）に私はショックを受けると同時に、今や私達は今回のサイクルの最終段階に突入したことを強く感じました。ニューエイジの本や、このサイトの記事をよく読まれている方々は、すでに地球と私達の魂が3D（三次元）を卒業する段階に来ていることをご存知でしょう。地球人のエネルギーを完全に4D状態に変えるような、真のグローバルな変化は、2010年から2013年の間に起こるであろうとされています。この最後の重要な段階にいる私達は、今後ますます、地理的に、社会・経済的に、そして精神的・霊的に、これまで数多く推測されているような様々な混乱や変動を経験することと思います。これらのことは実際には起こらないだろうと思っていましたし、今後も起こらないかもしれません。けれども、私にはこれらのことの起こる可能性が強いように思われます。

これから2年ほど経って、人々が1990年代を振り返ってみたとき、あの頃は比較的平和な時代であったと思うに違いありません。なぜなら、次の2、3年は人間のネガティブな面の全てが、グロテスクな形をとって現れてくるだろうと思うからです。破壊されたワールド・トレード・センターからもうもうとあがる黒煙の中に、はっきり見える悪魔の顔（左上の写真）の意味するところを軽視してはなりません。この写真の提供者によれば、この写真には一切手を触れておらず、建物を写したらこの顔が写っていた、とのことでした。たちの悪いはずらかもしれませんが、たとえそうでないとしても私は驚きません。真に「邪悪なもの」と対峙（じ）しようとしている人々にとって、この写真に写っているものがこれから起こることや、この先表面化する闇の勢力を暗示しているのかどうかよく考えてみることは非常に重要なことです。

しかしながら、私達の真の敵は、いわゆる「邪悪」と呼ばれているものたちではありません。まず第一に、この3Dでは邪悪の道を選択したり、自己への奉仕（愛を排除し、他人をコントロールすることによりパワーを得ようとするもの）を選ぶものたちが完全に消え去ることは決してありません。たとえヒュドラ（訳注：ギリシャ神話に出てくる9つの頭を持つ大蛇；一つの頭を切るとすぐに二つの頭が生えたという）の頭の一つを打ち砕いたとしても、すぐに別の頭が生えてきます。第二に、暴力は暴力を、憎しみは憎しみを生み出すということです。つまり、世界の指導者達が唱えているような、全ての戦争を終結させるこ

とのできる戦争はありえないということです。理にかなわぬ苦しみを生じさせることは、私達がとるべき道でも、創造主が望んでいることでもありません。

かのガンディーは、「目には目をという行為は全世界を盲目にするだけである」と述べていますが、「聖戦」などというものは、これまでもなかったし、これからも決してないでしょう。人間性が、今、危機に瀕（ひん）しているのは、全くのところ、「聖戦」といった理念に取りつかれてしまったせいです。ネガティブなET連合体にとって、この毒薬的概念を集団の精神に植え付け、うまく成長させたことは、過去5000年間における唯一の盛挙に違いありません。復讐をあおり、破壊し合うこの苦い種は今もあちらこちらにまかれ、それらの芽は勢いよく成長し続けています。この行為の源は「信念」であり、この信念による行為を二度と起こさないようにすることこそ、私達のなすべき仕事なのです。

正当な報復に対しては私も全面的に支持しますし、報復を断固達成する決心についても理解できます。又、評価もできます。けれども、結局のところ、本当の敵は私達の内面に存在する「恐怖」と「無知」なのです。邪悪な顔を見るとき恐怖やその本質を知ることへの恐れ、そして宇宙の計画や自分自身の本質と霊的進化についての無知・無関心こそ、私達を現在の苦境に追い込んだ真の要因です。世界平和は各人の内なる平和からスタートします。内なる平和の無いところに、真の正義や人権を確立することはできません。この「内なる平和」こそ、自己の内外の調和を保つ唯一基礎となるものだからです。

霊的円熟を目指す人々は、自己への奉仕を選ぶ存在がいるという事実、又、彼らの意図や考え方、そして彼らの恐ろしい行為に直面する必要があります。私達は直面することに尻込みしたり、拒否したり、あるいは理由づけをする必要はありません。子供ではないのですから、直面できます。邪悪とは、苦悩を探求することであり、ハートの無い知性から生まれるものです。それは決して偶然に生じるものでも、宇宙の計画からはずれたものでもありません。この国であれ、外国であれ、心に憎悪が生じるのは、本人がそれを意図したからです。直面するということは、この意図を弁明することではなく、単に、その本質や意図的に作り上げられた論理と正面から向き合うことです。

さらに、邪悪と言われているものは、私達が好むと好まざるにかかわらず、又、気づいているかどうかにも関係無く、地球人の集合精神の中にはびこっています。物事を見る目のある人には、それが私達の周囲の至る所に存在し、真実といわれることの中にさえひそんでいることがわかります。平和を愛する人々ですら、否定的な人生を送ったり、人や物事を見かけで判断するなど、それとはわからない方法で、邪悪さに寄与しているのです。「マトリックス」という映画にもありましたが、私達の世界はどこもかしこも人間をコントロールする構造になっています。ただ、わずかではありますが、この構造から完全に自由になろうとしている

人々もいます。この三次元にいるかぎり邪悪と呼ばれているものの存在を否定することはできないにしても、それで全ては終り・・・というわけではありません。

ワールド・トレード・センターの建物に現れた悪魔の顔は、世界平和を目指す人々にとって良い前兆とはいえません。けれども、これからは大勢の人々が、これまで人類史上には無かったような、愛と思いやりに満ちた時代を経験するだろうと思います。これまではびこっていた「邪悪」なものがとつじょ、様々な形で出現するとき、それに対して私達がどのような反応を示すか、又、個人の生活においても数え切れないほど大小様々なチャレンジを余儀なくさせられますが、それらにどう対処していくかは、全て個人個人が解決すべき問題です。とはいえ、世界をよく観察していれば、今私達が突入し始めたこの段階は、全人類の魂がどちらかの極（自己への奉仕か他者への奉仕）に向かって進化を促進することのできる、比類の無い機会でもあることがわかります。そしてこれこそが、運命の日—9月11日以降、全ての国家に起きてることなのです。

「収穫の時」が近づくにつれ、地球上はますます第4デンシティ（密度）のバイブレーションで占められ、分極（分裂）がより強力に推し進められていきます。つまり、私達全てが、自分の意図するどちらか一方の極——憎しみと暴力へ向かうか、それとも愛、平和、正義へ向かうか、に分かれるのです。簡単にいえば、「悪はますます悪に、善はますます善に」ということです。私達は現に多くのアメリカ人が声高に報復や国家防衛、そして他国への攻撃を叫んだり、極端に攻撃的なものがより強い力を持つといった事実遭遇しています。「俺達をやっつけようとしても無駄だぞ！ 貴様らをこの世から消しちまうからな！」、などの怒声、怒声、怒声——。正義、安全、そして適切な罰は必要であると思いますが、国家主義的な激怒や復讐は、短期間においてそれがどれほど満足するものであっても、究極的には自己破壊や、終わりのない暴力の循環をもたらします。まさに「目には目を」の行きつく先は全盲です。

一方、何百万人という人々が、献血を申し出たり、食べ物やお金を寄付したり、又様々な救援活動を行っています。世界中の教会や寺院は苦しみ傷ついた人達の為に祈りをささげる人々で満たされ、又、宗教の違いを超えた全世界的な集会は、人々に共通の場をもたらしました。亡くなった人達のために世界中で夜を徹した祈りが行われ、新聞紙上は英雄行為や自己を投げ出しての救助活動、そして自己犠牲や様々な形で行われる親切な行動などの記事であふれています。この愛と一体化への道（他者への奉仕）が二つ目の選択であり、きっと多くの人々が一つ目の選択である死の道（自己への奉仕）ではなく、この二つ目の道を進むことでしょう。

ワンダラーの多くが、これまで予想されてきたような社会・経済の混乱や世界大戦、そして又大規模な地球の変化は一体いつ起こるのかと思ってきました。又、

もし自分たちが十分に役目を果たしたら、これらのことは起こらないかも知れない・・・とも。率直に言って、別に驚くことではないかもしれませんが、現在、私達はこれらの起こる寸前にいると思います。これが私のいう「次の段階」であり、私達は今まさに、この段階に突入したのです。9月11日の事件を境に、私達はこれらの現象——世界規模の戦争、地理的不安定、社会・経済における大混乱——に接近しつつあると考えています。

既に話しましたように、この段階は今後5－6年間、つまり2006－2009年頃まで続くのではないかと思います。この期間中、私達は起こるべくして起こる地球の大変動を経験するでしょう。又、**全世界を完全に支配**し、人々を権力でコントロールしようとしている連中（自己への奉仕の道に向かって高度に進化している人々）がこれを**最後の機会ととらえ、全力投球する**だろうと思います。9月11日以前に比べ、私達がこれまで恐れてきた（あるいは単に疑問視してきた）最も困難な状態を体験する可能性が、より大きくなったように感じられます。もし、地球上にこの状態の起こることが明白となるなら、それはまさしく**精神異常の世界を打破する機会**にほかなりません。そして、それは又、地球の癒し（いやし）の一環であり、私達の霊的進化を促進する機会でもあります。危機と機会は常に共存しているのですから——。

1981年、高エネルギー兵器（粒子ビームや精神に影響をおよぼす電子兵器）の開発とそれらを使用する可能性について質問を受けたラー（ETグループ）は、次のように明確に、過酷で不吉な意味合いをもつ返答をしています。

「これらを含む兵器によって破壊される規模は莫大なものとなるであろう。われわれはあなた方が平和裏（り）に「収穫」を達成できるよう、このような武器の開発を注意深く監視している。」（「大いなる一の法則」第五巻、17－19ページ）

これが事実なら、この進化サイクルの最終段階のシナリオは——現在の世界がアセンションをする「収穫」期に、大規模な破壊を伴う戦争が勃発する——といった最悪なものになります。おそらく、9月11日に起こった惨事を、多数の人々は、自分たちの最も恐れていることが一部現実化したのだ、と認識するでしょう。勿論必ずしもこのようなことが起こる必要はありません。けれども、恐れるものから目をそらすことは、霊的にも未熟であるといえます。

私個人は、起こりうることを熟慮することにより、起こる可能性を食い止めることができると思っています。ですから、「想いは実現するんだから、そんなことを話すのは止めなさい」という人々の意見には同意できません。 実のところ、ハートを開き、明晰な心でこのような恐ろしい可能性を熟視し、自分の考えを愛と光とともに人々に伝え、破壊に向かう集合意識を変化させることこそ、望まし

くないことを起こす可能性を回避する最も有効な方法であると考えます。いずれにしろ、今私達が直面しなければならない恐怖は、全世界が破壊される恐怖の一部なのです。

しかしながら、もし、私達が目を上の方に向けるなら、そこに宇宙の恵みと輝きを見ることができます。英国のミルクヒルで20XX年8月XX日に出現した、ひととき異彩を放つクロープサークル（写真右上）は、私達地球人が味わっている絶望に対しても別な見方をすることができる、と語りかけているように思えます。私達は一人ぼっちではありませんし、これまでも一人ぼっちになったことはありません。私達の進化指導をしてきている他次元の存在達から、私達はあふれるほどの愛とパワーももらっています。彼らの介入を祈り、懇願しなければならない、という意味ではなく、私達は彼らからのメッセージ——宇宙は実在し、力強く美しい——を受け取る必要があるということです。もしそのメッセージに心を開くなら、私達の内外にこのような宇宙が形作られていくでしょう。地球の人間は慢性的な自己破壊に陥っているようですが、宇宙は無限の愛の世界なのです。

私達地球人が、3Dの卒業式と、美と歓喜の4Dへと続く、3Dサイクル最終段階に向かってスタートした今こそ、2つの道——極端に邪悪な世界へ向かう道と歓喜と美にあふれる世界へ向かう道——に直面しなければなりません。今この文章を読まれている皆さんは既に選択を終えておられると思いますが、周囲を注意深く観察してみれば、大半の人々はまだ選択を済ませていないということがわかるでしょう。真の霊的善へと向かうには、単に「幸せを望む」だけではなく、明確に、私達が「ひとつ」になる方向を目指すことが必要です。これから2、3年の間に、多くの人々が自分の道を選択すると思いますが、彼らはきっと「愛と他への奉仕の道」を選ぶだろうと信じています。

個人の内面、外の世界、これまで秘密にされ、隠されてきたものなど——の全てが激しく変化するこの時期にあって、様々なことを体験しながら、私達が直面する必要のあるものに直面できるよう自身の内面に強さを発見し、又自分の進むべき道を明確に選ぶ力を持つことのできるよう心から祈っています。私達が周囲に見るものは、私達の内面にあるものであり、私達の世界を知るとは、私達自身を知ることです。さらに、私達に本来備わっている霊的なパワーを見つけ出すことは、宇宙の根源（創造主）に再びつながることなのです。これは一般的な知性や理性を超えるものであり、自分がどのように、そしてどれだけ変容するかは、自分自身が決めることです。地球は既に地球自身の道を選択しているのですから、私達も自分自身の道を決めなければなりません。

2001年9月17日  
米国のサンフランシスコにて